

平成24年度 病害虫発生予察情報

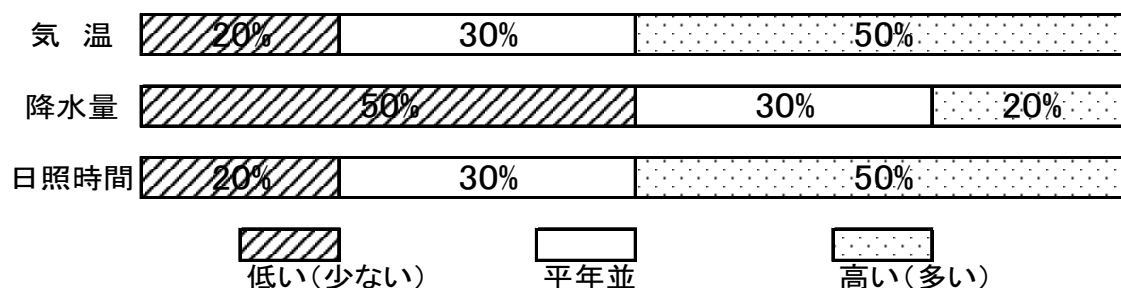
発生予報第6号（8月）

平成24年7月30日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並
		紋枯病	少ない
		白葉枯病	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	やや多い
		トビイロウンカ	やや少ない
		コブノメイガ	少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い
		黒斑病	少ない
		シンクイムシ類	平年並
果樹	ナシ	ハダニ類	やや多い
		カメムシ類	やや多い
		うどんこ病	やや多い
	カキ	カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや多い

中国地方1か月予報(7月28日～8月27日・広島地方气象台7月27日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 7月下旬に行った定点調査(70圃場)における葉いもちの発生量は発生圃場率22.9%(平年33.0%)、発病株率9.8%(平年18.9%)とほぼ平年並みであるが、中山間部で発病程度のやや高い圃場が散見された。

② 8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

① 7月下旬の定点調査における発生圃場率は20%(平年34.9%)、発病株率は2.4%(平年6.3%)で、全般の発生量は平年に比べて少ない。

② 8月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

- (3) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 常習発生地
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①全般の発生量はほぼ平年並みである。
 ②8月の気象は本病の発生にやや抑制的である。
- (4) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯での誘殺数は平年に比べてやや少ない。
 ②7月下旬の巡回調査では、捕獲数は14.4頭(平年18.8頭/25株)、発生圃場率は69.2%(平年73.5%)で発生量は平年並みである。
 ③8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (5) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ①予察灯への飛来は7月2日、5～6日頃に認められたが、以降まとまった飛来は認められない。7月下旬までの誘殺数は平年並みである。
 ②7月下旬の巡回調査では、捕獲数は72.9頭(平年28.1頭/25株)、発生圃場率は84.6%(平年75.5%)で発生量は平年に比べてやや多い。
 ③8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (6) トビイロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①予察灯への初飛来は7月6日に認められた。
 ②7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭(平年0.07頭/25株)、発生圃場率は0%(平年4.2%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
 ③8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) コブノメイガ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ①予察灯への飛来は7月下旬まで認められない。
 ②7月下旬の巡回調査では被害株率0%(平年3.6%)、発生圃場率は0%(平年23.2%)で発生量は平年に比べて少ない。
 ③8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) 斑点米カメムシ類

※ 斑点米カメムシ注意報(7月30日) 発表

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い～多い
 予報の根拠
 ①7月下旬に出穂している圃場ですくい取り調査を行ったところ、発生圃場率は86.8%(平年:72.0%)、平均頭数は7.9頭/20回振り(平年:6.2頭)で平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシである。
 ②予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数は56頭(7月第3半旬まで累積、平年90頭)でほぼ平年並みである。
 ③8月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

- 予報内容
 発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯
 発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月27日の巡回調査では、発病葉率は7.3%（平年13.3%）であり、平年と比べて少ない。
- ② 8月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数ともに平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

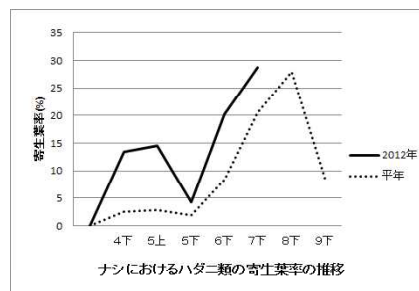
(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では寄生葉率28.7%（平年20.6%）で平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。
- ③ クワオオハダニが見られる圃場も散見されます。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

※ 果樹カメムシ注意報（7月13日）発表

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量

予報の根拠

- ① 予察灯（出雲市）での7月1～5半旬までの誘殺数は1,132頭（平年786.7頭）で平年に比べやや多い。
- ② チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる7月1～5半旬の誘殺数は1,414頭（平年786.7頭）と平年に比べて多い。
- ③ 8月の気象はカメムシ類の発生を抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月26日の巡回調査では、発病葉率は18.6%（平年4.5%）であり、平年と比べて多い。
- ② 8月の気象は、本病の発生に抑制的である。
- ③ 気温が高い盛夏期は一時的に病勢が停滞する。
（発生圃場においては、気温が低下し始める8月下旬頃に薬剤散布する）

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。
- ② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

※ 果樹カメムシ注意報（7月13日）発表

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯（出雲市）での7月1～5半旬までの誘殺数は1,132頭（平成786.7頭）で平年に比べやや多い。
- ② チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる7月1～5半旬の誘殺数は1,414頭（平成786.7頭）と平年に比べて多い。
- ③ 7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率0.5%（平成0.4%）と平成並みである。
- ④ 向こう一か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

- ① フジコナカイガラムシ防除適期の予想
- ② ウンカ情報

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>